

望にうまい料理と酒、何より久しぶりの友人知人との会話は時間を超越する。お互い外見の衰えは仕方ない。健康面も含めていろんな人生を歩んできたので皆いい顔をしている。初対面でも途中から突っ込みもあるのはいい。こじんまりとした大学だからこそ気楽に気さくに話せる。遠くから参加した甲斐がある。同じ能楽部の友人は学生時代から小難しいやつと思っていた。しかし今は互いに何の利害関係も遠慮も気遣いもなく、平気で好き勝手なことを言う。本当にあつという間にお開き。非常に心残りのまま会場を後にする。関西の支部会等にも気楽に来てほしい、京都淡水会の新年会には是非にと告げて2人とは別れる。

折角の岐阜、3人での二次会に誘う。当然ながら土地勘はない。まだ日が高いので駅近くで開いている店を探す。お互いライン友達になろうとするが、高齢と酔いでうまくいかない。次の機会にと諦め、電車に乗る。ところが気付けば岐阜駅に向かっている。行ったり来たり。車中での別の友人から京都で飲んでいるとの連絡。来年の下見と言いつつ京都で京都市で途中下車する。

老人は「キョウヨウ」と「キョウイク」が必要と聞く。今日用がある、今日行くところがある。さあ老人も積極的に出掛けよう。心配無用。尿漏れパンツを履いて。

(学部24回 後藤 和博 記)

管理科学科同窓会だより

管理科学科の同窓会@神戸は、年2回、5月第2土曜日と11月第2日曜日に三宮の淡水サロンで開催しています。

令和5年度の春は、5月13日(土)に、参加者9名という少人数での開催でしたが、12時30分から18時過ぎまで、ほぼ6時間、卒業回の違いの壁を越えて、各グループに分散ではなく、全員参加の歓談で大いに盛り上がりつつ終了しました。



春の参加者:緒方健一(26回)、中富博之、有馬昌宏(以上28回)、田中豊(29回)、西村ひとみ、河合ひろ子(以上33回)、太田吉晴、藤岡亮太、清水誠(以上38回)

秋は、幹事の都合で第4日曜日の11月26日の開催となりました。13時開始予定でしたが、12時半過ぎから参加者が集まり始め、18時過ぎまで、20分を超える時間を取られる方もおられました。喜寿を迎えた管理科学科3期の19回生から管理科学科最後の入学生である58回生まで



秋の参加者:片山昌保(19回)、田中浩光(20回)、高瀬知(24回)、向井庸裕(27回)、中富博之(28回)、有馬昌宏(28回)、田中豊(29回)、守屋雅之(29回)、藤岡亮太(38回)、梶本浩之(39回)、島崎弘康(41回)、坂本(相原)幸絵(47回)、加藤優希(58回)

13人の参加で、16時過ぎまで各自の近況報告をした後、飲んで食べて楽しく歓談して6時間があつという間に過ぎてしまいました。

春と秋の年2回、定期的で開催しています。令和6年度も開催予定です。13時から18時頃までワイワイガヤガヤと楽しんで歓談しておりますので、ご都合がつけば、30分でも1時間でもよいので、顔を覗かせていただければ嬉しいです。

(学部28回 有馬 昌宏 記)

渡部浩太郎ゼミOB会

渡部ゼミOB生が、後期高齢を迎えて大きな手術を経験し、入院や自宅療養中に恩師のことを想い、しばらくお目に掛かっていない恩師の奥さまのことを想い、『奥様への手紙』として寄稿しました。

拝啓

残暑のお見舞いを申し上げます。

朝夕は少し涼しくなってきましたが、日中は猛暑が続いています。感染症は下火になるところか、少しずつ増えているようです。そんな厳しい状況が続いていますが、奥様はお変わりなくお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

さて私事で恐縮ですが、4月の心臓弁膜症、8月の肺ガンの手術を何とか無事に終えて、9月からは自宅で療養とリハ



ピリに努めています。日にち薬で快復に向かっていると自分なりに確信しています。

後期高齢者になってからの大きな手術だったものだから、入院中は先々の不安に苛まれました。それでも多くの時間に恵まれて、過去の懐かしい思い出にも浸ることが出来ました。

不思議なことなのですが、人生の窮地に陥り、自分の過ちをあれこれ反省し終る頃に、頭の中に、渡部先生が登場して、あの穏やかな口調で私を慰め励まして下さるのです。先生はいつまでも私の人生の教導であり、木鐸であり続けているのです。このことをまず奥様にお伝えしたいと思いました。

先生が他界され、渡部ゼミOB生が126名も学園都市の大学キャンパスに集って『恩師を偲ぶ会』を実施してもう8年が過ぎるのでしょうか。あの折に植えられた記念樹の『桜』は順調な成長を続けています。

厳しい環境の中、今では花が咲かない年があります。それでも淡水会、大学の守衛さん、ゼミOB生の有志による酷暑の水遣りや見守りが続いており、何とか枯れずに済んでいる状況です。過去何度か土壌改良も行いましたが、芳しい成果は上



2016年の渡部ゼミ『観桜会』の回想写真。中央が教授の奥さま

がっていません。そんな中、桜を植え替える話もありましたが、すぐに消えてしまいました。かつて先生が未熟な私たちゼミ生を見放すことなく育てて下さったことを思い出したからに違いありません。

毎春の『観桜会』はコロナによる中断もなく続いています。私は心臓手術の為に、今春は欠席させて頂きましたが、富永さんを中心に滞りなく実施されており、その様子は淡水会ホームページに紹介されております。

奥様も『観桜会』には最初からご参加下さいましたが、2018年にあの素晴らしい『桜』の独唱を謳って下さってからは、体調を悪くされたのか『観桜会』にはご参加して頂いておりません。勿論お身体が一番大切ですので、無理をせず私どもの報告に目を通して下さることで充分と考えています。

秋の気配を少しは感じるようになりま

した。奥様のお気遣いにはいつも感謝しています。誠に有難うございます。奥様の末永いご健康を祈念しております。ご自愛下さいますように。

敬具

令和5年9月27日

太田正明拜

渡部敦子様

(学部20回 太田 正明 記)

10月22日 渡部敦子様は安らかに永眠されました  
編集委員会

## 衣川ゼミOB会

皆様、こんにちは。神戸商科大学学部28回、台湾からの留学生で、張東権と申します。

私は、昭和48年に来日、最初に大阪の外国人日本語学校で日本語を学び、昭和49年に神戸商科大学に入学致しました。未知でありながら、ひたすら勉強したい気持ちで、自ら衣川ゼミを選択致しましたが、衣川先生が私の人生にとって、大きな影響のある方の一人と思っております。もちろん、私の日本語がより流暢に話せるようになったことも、先生のお陰です。なお、一番感心し見習いたいことは、先生の大らかな性格と口達者であることです。そのほか、先生からスキーに

誘っていただき、スキーのスキルを教えてもらいました。

在学中、衣川先生から教えていただいたのは、日本語だけではなく、人間として、仕事のあり方など、たくさんのお話を教えていただきました。その後、私は社会に出て、仕事し、創業した際にも、先生の教えは、すべて私の仕事の心得になり、心から感謝しております。

去年から、同じ台湾出身の邱賢陽君と一緒に、2年連続で衣川ゼミ懇親会に参加させて頂きました。今後も、衣川先生やゼミ生の皆様とお会いできることを期待しております。さらに、機会があれば、台湾で衣川ゼミの懇親会を開催できれば、と願っております。

(学部28回 張 東権 記)



令和5年12月10日 京都「妙心寺」